

令和7年度採用

群馬県公立高等学校教員選考試験問題

## 商 業

|                  |  |            |  |
|------------------|--|------------|--|
| 受<br>験<br>番<br>号 |  | 氏<br><br>名 |  |
|------------------|--|------------|--|

### 注 意 事 項

- 1 「開始」の指示があるまでは、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから7ページまであります。「開始」の指示後、すぐに確認してください。
- 3 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 4 「終了」の指示があったら、直ちに筆記具を置き、問題用紙と番号順に重ねた解答用紙を机の上に置いてください。
- 5 退席の指示があるまで、その場でお待ちください。
- 6 この問題用紙は、持ち帰ってください。

- 1 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）では、教科「商業」の目標について、次のように示されている。後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・（①）な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、（②）をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・（③）を次のとおり育成することを目指す。

(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する（④）を身に付けるようにする。

(2) ビジネスに関する課題を発見し、（a）職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、（b）ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

- (1) （①）～（④）に当てはまる語句を答えよ。
- (2) 下線部（a）について、「職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う」とは、具体的にどのような力を養うことを意味しているか答えよ。
- (3) 下線部（b）について、このような態度を養うために、具体的にどのような学習活動が考えられるか答えよ。

- 2 「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）の教科「商業」及び「高等学校学習指導要領解説 商業編」（平成30年7月）に関する次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の表は、教科「商業」における各科目の位置付けを示したものである。（①）～（⑤）に当てはまる語句や科目名を答えよ。

表

| 分野        | 各分野の科目   | 分野共通の科目               |             |
|-----------|--|-----------------------|-------------|
|           |  | 基礎的科目                 | 総合的科目       |
| マーケティング分野 | マーケティング<br>（②）<br>観光ビジネス                       | （④）<br>ビジネス・コミュニケーション | 課題研究<br>（⑤） |
| マネジメント分野  | ビジネス・マネジメント<br>グローバル経済<br>ビジネス法規               |                       |             |
| （①）分野     | 簿記<br>財務会計Ⅰ<br>財務会計Ⅱ<br>原価計算<br>管理会計           |                       |             |
| ビジネス情報分野  | 情報処理<br>（③）<br>プログラミング<br>ネットワーク活用<br>ネットワーク管理 |                       |             |

- (2) マネジメント分野では、教科の目標に示す資質・能力を踏まえ、どのような力を育成するか答えよ。

3 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 予定売価¥300,000の商品を、予定売価の1割5分引きで販売した。実売価はいくらか答えよ。
- (2) 1株につき¥2,000の株式を300株売り渡したとき、手取金はいくらか答えよ。ただし、約定代金の0.5%の金額に¥1,000を加算した手数料を支払うものとする。
- (3) €1=¥150であるとき、¥60,000は何ユーロか答えよ。ただし、手数料は考えないものとする。
- (4) 利息の計算方法について、「単利法」と「複利法」とはどのようなものかそれぞれ答えよ。

4 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 商品の発注から補充までに要する時間のことを何というか答えよ。
- (2) 供給連鎖管理と呼ばれる、複数の企業間で構築された総合的な物流システムのことを何というか答えよ。
- (3) 1年間あるいは3か月など一定期間に国内で生み出された付加価値の総額のことを何というか答えよ。

5 次の(1)～(4)の文中の(①)～(⑩)に当てはまる語句を答えなさい。

- (1) 簿記上の取引について、勘定科目と金額を左右(借方と貸方)に並べて記入することを(①)という。また、(①)を勘定口座に書き移すことを(②)という。
- (2) 企業の財政状態や経営成績を明らかにするためには、一定の期間的な区切りをつける必要がある。この区切られた期間を(③)といい、(③)の初めを(④)、終わりを期末という。製造業では、商品売買業と同じように(③)は通常1年であるが、製造原価の算定を迅速に行う必要性から、普通(⑤)ごとに期間を区切って原価計算を行う。この、(⑤)ごとに区切った期間を(⑥)という。
- (3) 通信文書は、(⑦)、本文、(⑧)という三つの大きな構成要素からなる。(⑦)は、本文の前に付けるという意味であり、(⑧)は、本文を補うものである。本文は、その文書の中心的な部分であり、(⑨)、頭語・前文、主文、末文、結語、別記から構成されている。(⑨)は、その文書の用件が一目で理解できるように、主文の内容を短い言葉であらわしたものである。
- (4) 情報セキュリティ分野では、コンピュータやネットワークのセキュリティに被害が発生した事故や事例などのことを片仮名6文字で(⑩)という。

6 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の資料はA製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）に関するものである。後の原価計算表の(ア)～(エ)に当てはまる金額を答えよ。

【資料】

- ① 材料費 ¥1,200  
     直接材料費 ¥1,000 (A製品¥600 B製品¥400)  
     間接材料費 ¥ 200
- ② 労務費 ¥800  
     直接労務費 ¥ 700 (A製品¥300 B製品¥400)  
     間接労務費 ¥ 100
- ③ 経費 ¥500  
     直接経費 ¥ 300 (A製品¥200 B製品¥100)  
     間接経費 ¥ 200
- ④ 製造間接費は、A製品に60%、B製品に40%の割合で配賦する。

原 価 計 算 表

製造指図書#1

(A製品)

| 直接材料費 | 直接労務費 | 直接経費 | 製造間接費 | 製造原価 |
|-------|-------|------|-------|------|
| (ア)   | 300   | 200  | (イ)   | ※※   |

原 価 計 算 表

製造指図書#2

(B製品)

| 直接材料費 | 直接労務費 | 直接経費 | 製造間接費 | 製造原価 |
|-------|-------|------|-------|------|
| 400   | (ウ)   | 100  | ※※    | (エ)  |

(注) ※※印は、金額の表記を省略している。

(2) 製造指図書#3の製造中に作業くずが発生した。これを¥500と評価し、製造原価から差し引いた。このときの仕訳をせよ。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを使用すること。

【勘定科目】

|    |      |     |     |
|----|------|-----|-----|
| 製品 | 作業くず | 仕掛品 | 仕損品 |
|----|------|-----|-----|

7 次の図1～3は、ある企業の流動比率、当座比率、負債比率の推移を示したものである。後の(1)、(2)の問いに答えなさい。

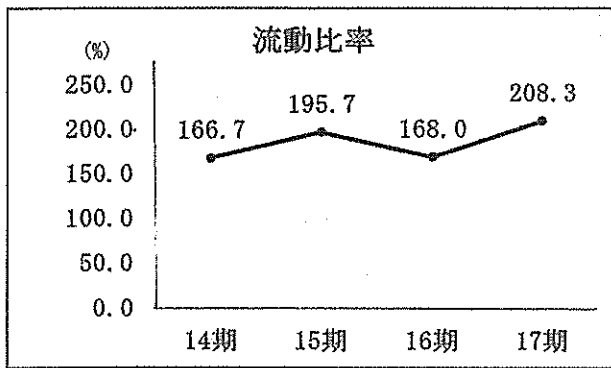


図 1

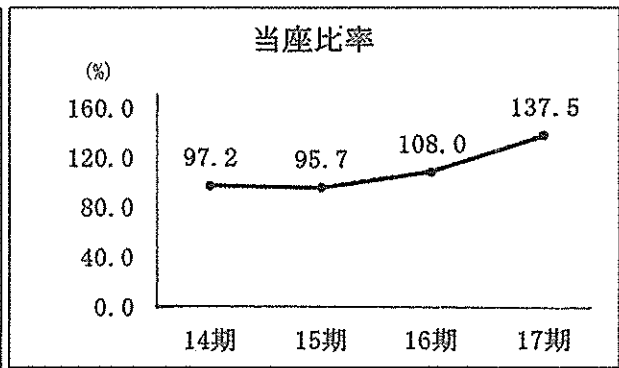


図 2

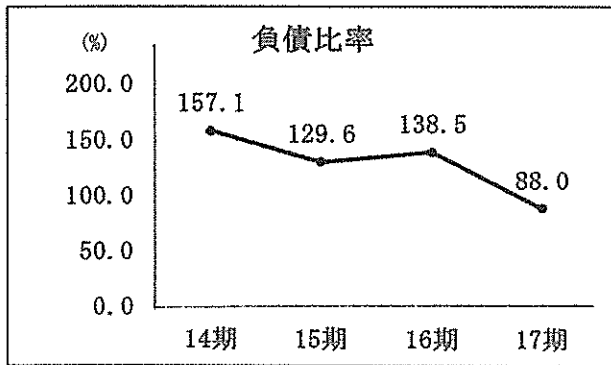


図 3

(1) 負債比率を求めるための計算式について、(①)、(②)に当てはまる語句を答えよ。

|     |      |   |                             |            |
|-----|------|---|-----------------------------|------------|
| (式) | 負債比率 | = | $\frac{\text{①}}{\text{②}}$ | × 100. (%) |
|-----|------|---|-----------------------------|------------|

(2) 図1～3から、この企業の安全性についてどのようなことが読み取れるか、根拠となる比率を用いて説明せよ。

8 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) C商店の5月1日と6日の取引に関する仕訳をせよ。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを使用すること。

【勘定科目】

|    |      |     |     |     |    |
|----|------|-----|-----|-----|----|
| 現金 | 当座預金 | 前払金 | 買掛金 | 借入金 | 仕入 |
|----|------|-----|-----|-----|----|

取引

5月1日 C商店はD商店に商品¥400,000を注文し、その内金として¥50,000を小切手を振り出して支払った。

6日 C商店はD商店から商品¥400,000を仕入れ、内金¥50,000を差し引き、残額は掛けとした。

(2) 次の資料から、後の(ア)～(エ)に当てはまる勘定科目や金額を答えよ。

【資料】

|   |       |  |
|---|-------|--|
| ① | 4月10日 | 本店は、支店に商品¥10,000(原価)を発送し、支店はこれを受け取った。      |
| ② | 6月13日 | 本店は、支店に現金¥30,000を送り、支店はこれを受け取った。           |
| ③ | 8月21日 | 支店は、本店の買掛金¥21,000を現金で立て替えて支払い、本店はその通知を受けた。 |

〔本店の総勘定元帳〕

支店

|      |    |     |      |     |    |
|------|----|-----|------|-----|----|
| 4/10 | ※※ | (ア) | 8/21 | (イ) | ※※ |
| 6/13 | 現金 | ※※  |      |     |    |

〔支店の総勘定元帳〕

本店

|      |    |     |      |    |     |
|------|----|-----|------|----|-----|
| 8/21 | ※※ | (ウ) | 4/10 | ※※ | ※※  |
|      |    |     | 6/13 | ※※ | (エ) |

(注) ※※印は、勘定科目や金額の表記を省略している。

(3) 現金過不足について、次の取引を基に、勘定口座(T字型)を用いて解説するための板書例を作成せよ。

取引

7月14日 現金の実際有高と帳簿残高を照合したところ、実際有高は¥12,000で、帳簿残高より¥7,000多かった。

19日 調査の結果、過剰額のうち¥4,000は、受取利息の記入もれであることがわかった。

12月31日 決算にあたり、原因が不明なため、現金過不足勘定の残高を雑益勘定に振り替えた。

9 次の表のデータを用いて流れ図に従って処理を行う。後の(1)～(3)の問いに答えなさい。

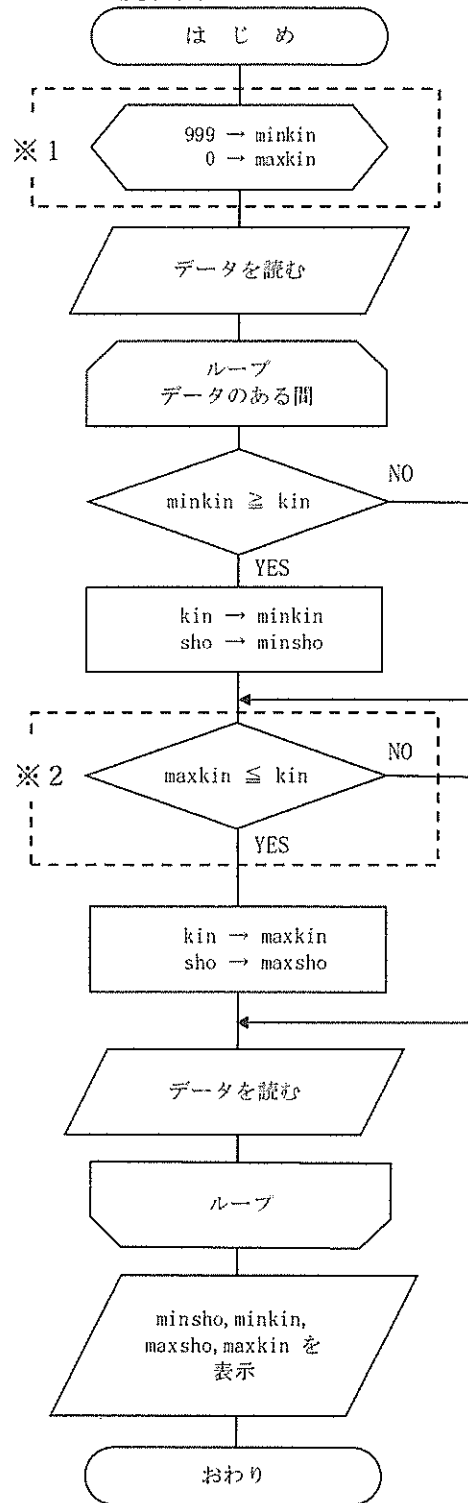
表

|      | 商品名<br>(sho) | 販売金額<br>(kin) |
|------|--------------|---------------|
| 1 件目 | アイス          | 300           |
| 2 件目 | チョコ          | 350           |
| 3 件目 | キャンディー       | 50            |
| 4 件目 | ドーナツ         | 350           |
| 5 件目 | グミ           | 50            |
| 6 件目 | カステラ         | 350           |

<処理条件>

- 1 データが終了した後、最低販売金額と最高販売金額の商品名と販売金額を表示する。
- 2 最低販売金額と最高販売金額が複数ある場合には、後から読まれたデータを表示する。

<流れ図>



- (1) ※1の処理において、minkinに999、maxkinに0を代入する理由を答えよ。
- (2) 全ての処理が終了したときのminsho、maxshoの値を答えよ。
- (3) ※2の処理をmaxkin < kinと変更した場合、全ての処理が終了したときのmaxshoの値を答えよ。

10 表計算ソフトウェアを利用して、次の表を基に図1を作成する。後の(1)～(5)の問いに答えなさい。

表

|    | A         | B      | C      | D      | E      | F     |
|----|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 1  |           |        |        |        |        |       |
| 2  | 分野別販売金額推移 |        |        |        |        | 単位：億円 |
| 3  | 分野名       | 第1期    | 第2期    | 第3期    | 第4期    |       |
| 4  | 食品        | 500    | 525    | 545    | 560    |       |
| 5  | 衣類        | 1,000  | 1,120  | 1,180  | 1,300  |       |
| 6  | 雑貨        | 300    | 280    | 230    | 190    |       |
| 7  | DIY       | 10     | 14     | 16     | 18     |       |
| 8  | 合計        | 1,810  | 1,939  | 1,971  | 2,068  |       |
| 9  |           |        |        |        |        |       |
| 10 | 分野別伸び率    |        |        |        |        |       |
| 11 | 分野名       | 第1期    | 第2期    | 第3期    | 第4期    | 備考    |
| 12 | 食品        | 100.0% | 105.0% | 109.0% | 112.0% | ※     |
| 13 | 衣類        | 100.0% | 112.0% | 118.0% | 130.0% | ※     |
| 14 | 雑貨        | 100.0% | 93.3%  | 76.7%  | 63.3%  | ※     |
| 15 | DIY       | 100.0% | 140.0% | 160.0% | 180.0% | ※     |
| 16 |           |        |        |        |        |       |
| 17 |           |        | 上位伸び率  |        |        |       |
| 18 |           |        | 1位     | 180.0% |        |       |
| 19 |           |        | 2位     | 130.0% |        |       |

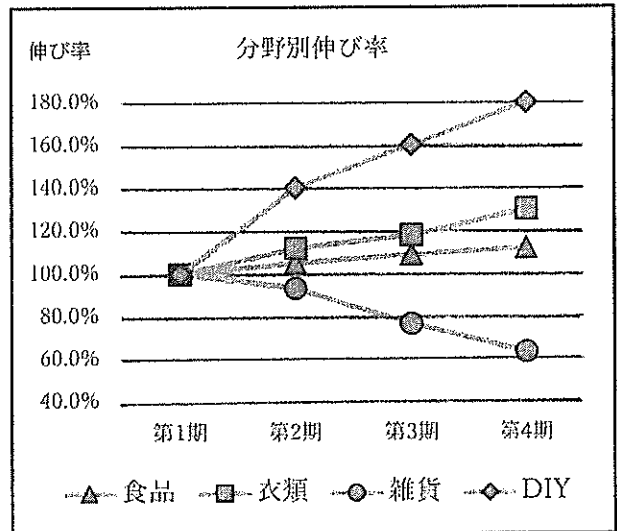


図1

(注) ※印は、値の表記を省略している。

- 表の「備考」は、分野別伸び率の第4期の値が120.0%以上の場合は○、それ以外の場合には×を表示する。セルF12に設定する式を答えよ。
- 表の「上位伸び率」は、分野別伸び率の第4期の値のうち、上位1位と2位を求める。上位2位を求めるために、セルE19に設定する式を答えよ。
- 図1のように、ある時点のデータを基準の100%として、それ以降の数期分のデータ変動の割合を比率で表した折れ線グラフを何というか答えよ。また、その特徴を説明せよ。
- 表及び図1から、DIYと雑貨について、どのように分析できるか述べよ。
- 表を基に、図1と異なる折れ線グラフを作成したところ、次の図2のようになった。分野別の販売金額を分析する上で、図2の問題点を答えよ。

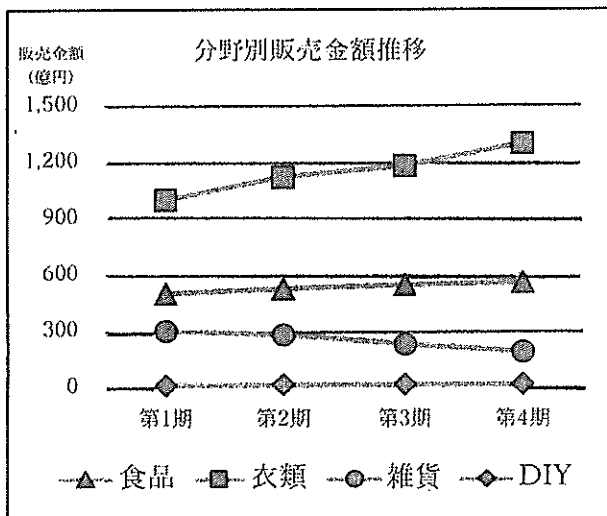


図2



|             |           |         |     |
|-------------|-----------|---------|-----|
| 商 業 解 答 用 紙 | 2 枚 中 の 1 | 受 験 番 号 | 氏 名 |
|-------------|-----------|---------|-----|

( 7 年 )

|   |     |      |     |   |     |   |      |   |  |  |
|---|-----|------|-----|---|-----|---|------|---|--|--|
| 1 | (1) | ①    |     | ② |     | ③ |      | ④ |  |  |
|   | (2) |      |     |   |     |   |      |   |  |  |
|   | (3) |      |     |   |     |   |      |   |  |  |
| 2 | (1) | ①    |     | ② |     | ③ |      |   |  |  |
|   | (2) | ④    |     | ⑤ |     |   |      |   |  |  |
| 3 | (1) |      | (2) |   | (3) |   |      |   |  |  |
|   | (4) | 単利法  |     |   |     |   |      |   |  |  |
|   |     | 複利法  |     |   |     |   |      |   |  |  |
| 4 | (1) |      | (2) |   | (3) |   |      |   |  |  |
| 5 | ①   |      | ②   |   | ③   |   | ④    |   |  |  |
|   | ⑤   |      | ⑥   |   | ⑦   |   | ⑧    |   |  |  |
|   | ⑨   |      | ⑩   |   |     |   |      |   |  |  |
| 6 | (1) | ア    |     | イ |     | ウ |      | エ |  |  |
|   | (2) | (借方) |     |   |     |   | (貸方) |   |  |  |
| 7 | (1) | ①    |     | ② |     |   |      |   |  |  |
|   | (2) |      |     |   |     |   |      |   |  |  |

|             |           |         |     |
|-------------|-----------|---------|-----|
| 商 業 解 答 用 紙 | 2 枚 中 の 2 | 受 験 番 号 | 氏 名 |
|-------------|-----------|---------|-----|

(7年)

|   |     |        |      |   |        |      |  |  |  |
|---|-----|--------|------|---|--------|------|--|--|--|
|   | (1) | 5/1    | (借方) |   |        | (貸方) |  |  |  |
|   |     | 5/6    | (借方) |   |        | (貸方) |  |  |  |
|   | (2) | ア      | イ    | ウ | エ      |      |  |  |  |
|   | (3) |        |      |   |        |      |  |  |  |
| 8 | (1) |        |      |   |        |      |  |  |  |
|   | (2) | minsho |      |   | maxsho |      |  |  |  |
|   | (3) |        |      |   |        |      |  |  |  |
| 9 | (1) |        |      |   |        |      |  |  |  |
|   | (2) |        |      |   |        |      |  |  |  |
|   | (3) | (名称)   |      |   |        | (特徴) |  |  |  |
|   | (4) |        |      |   |        |      |  |  |  |
|   | (5) |        |      |   |        |      |  |  |  |

以下はあくまでも解答の一例です。

|         |       |          |        |      |
|---------|-------|----------|--------|------|
| 商業 解答用紙 | 2枚中の1 | 受験<br>番号 | 氏<br>名 | (7年) |
|---------|-------|----------|--------|------|

|   |     |   |  |  |              |
|---|-----|---|--|--|--------------|
| 1 | (1) | ① 体験的 3点  | ② 地域産業 3点  | ③ 能力 3点  | ④ 技術 3点      |
|   | (2) | 社会の変化が加速し、将来の予測が困難で唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、単に利益だけを優先するのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題を解決する力を養うことを意味している。等   |  |  |              |
| 2 | (1) | ① 会計 3点   | ② 商品開発と流通 3点                                     | ③ ソフトウェア活用 3点                                    |              |
|   | (2) | ④ ビジネス基礎 3点   | ⑤ 総合実践 3点  | 経済社会の動向や法規などを踏まえて経営資源を最適に組み合わせてビジネスを展開する力を育成する。等 |              |
| 3 | (1) | ¥255,000 3点   | (2) ¥596,000 3点                                  | (3) € 400.00 3点                                  |              |
|   | (4) | 単利法   | 元金に対して一定の割合(利率)で利息を計算する方法。等                      |  |              |
| 4 | (1) | リードタイム 3点   | (2) サプライ・チェーン・マネジメント(SCM) 3点                     | (3) 国内総生産(GDP) 3点                                |              |
|   | (4) | 複利法   | 一定の期間ごとに利息を元金に繰り入れて、その元利合計を次期の元金として利息を計算していく方法。等 |  |              |
| 5 | ①   | 仕訳 3点   | ② 転記 3点  | ③ 会計期間 3点  | ④ 期首 3点      |
|   | ⑤   | 1か月 3点  | ⑥ 原価計算期間 3点                                      | ⑦ 前付け 3点   | ⑧ 後付け(付記) 3点 |
|   | ⑨   | 件名 3点   | ⑩ インシデント 3点                                      |  |              |
| 6 | (1) | ア 600 3点  | イ 300 3点   | ウ 400 3点   | エ 1,100 3点   |
|   | (2) | (借方)  |  | (貸方)   |              |
| 7 | (1) | ① 負債 4点   | ② 自己資本 4点  |  |              |
|   | (2) | 流動比率については、一般に200%以上が望ましいとされている。14期では166.7%であったが、17期では208.3%と200%以上になり、望ましい状態である。<br>当座比率については、一般に100%以上が望ましいとされている。16期より、100%を超えるようになり即時の支払い能力が十分にある。<br>負債比率については、低いほど安全であるとされている。14期から17期を比べると半分近く下がってきており、企業として堅実で安全になってきている。等 |  |  |              |

|     |     |        |         |      |         |    |   |        |    |   |        |    |
|-----|-----|--------|---------|------|---------|----|---|--------|----|---|--------|----|
|     | (1) | 5/1    | (借方)    | (貸方) |         |    |   |        |    |   |        |    |
|     |     | 前払金    | 50,000  | 当座預金 | 50,000  | 4点 |   |        |    |   |        |    |
|     |     | 5/6    | (借方)    | (貸方) |         |    |   |        |    |   |        |    |
|     |     | 仕入     | 400,000 | 前払金  | 50,000  | 4点 |   |        |    |   |        |    |
|     |     |        |         | 買掛金  | 350,000 |    |   |        |    |   |        |    |
| (2) | ア   | 10,000 | 2点      | イ    | 買掛金     | 2点 | ウ | 21,000 | 2点 | エ | 30,000 | 2点 |

7月14日 実際有高 ¥12,000 > 帳簿残高 ¥5,000  
(¥7,000多い)

7/14 現金勘定を¥7,000増加させて帳簿残高を実際有高に一致させる

現金

帳簿残高 5,000

7/14 7,000

実際有高 12,000

7/19 原因が判明した分については該当勘定に振り替える

7/19 4,000

7/19 4,000

雑益

12/31 3,000

現金過不足

7/19 4,000

7/14 7,000

12/31 3,000

12/31 原因が判明しない分は決算時に雑益勘定に振り替える

|                 |       |           |       |
|-----------------|-------|-----------|-------|
| 7/14 (借) 現金     | 7,000 | (貸) 現金過不足 | 7,000 |
| 7/19 (借) 現金過不足  | 4,000 | (貸) 受取利息  | 4,000 |
| 12/31 (借) 現金過不足 | 3,000 | (貸) 雑益    | 3,000 |

6点

|   |     |   |        |    |
|---|-----|---|--------|----|
| 9 | (1) | 1件目のデータを最小値と最大値として記録させるために、minkinに999、maxkinに0を代入する。等 |        | 6点 |
|   | (2) | minsho  | maxsho |    |
|   |     | グミ  | カステラ   | 3点 |
|   | (3) | チョコ   | 6点     |    |

|    |     |   |   |    |
|----|-----|---|---|----|
| 10 | (1) | =IF(E12>=120.0%, "O", "X") 別解 =IF(E12>=1.2, "O", "X")   |   | 6点 |
|    | (2) | =LARGE(E12:E15, 2)  |   | 6点 |
|    | (3) | (名称)<br>ファンチャート   | (特徴)<br>データ変動の割合で比較するため、比較する項目の値に明らかな差がある場合でも、一つのグラフで比較することができる。等 | 6点 |
|    | (4) | DIYの伸び率が高いため、さらなる成長ができるよう経営資源の適切な配分を検討し、成長を続けている要因を把握していく必要がある。また、雑貨の伸び率が低くなっており、原因を把握するとともに、その対策が必要である。等 |   | 6点 |
|    | (5) | DIY分野の値の変化を見極めることが難しい。等   |   | 6点 |